

## 教育開発支援センターからのお知らせ

## 図書館にラーニング・commonsが開設されました！

関西大学は2015年4月6日に3つ目となるcommonsとして「図書館ラーニング・commons」を開設しました。「考動力」を育むことを目指している関西大学では、学生の思考を促す能動的な学習、学習者が他者と協働し、自律的に学ぶことを重視していると考えます。こうした学びは授業内だけでなくとどまるものではありません。

そこで関西大学では、授業外においても学生が学び続け、その学びを深めるための学習環境を構築することに尽力しており、これまでに正課の授業や課外活動を促す「総合学生会館メディアパーク 凜風館コラボレーションcommons “通称Limcom” (2013年4月開設)」、ICT機器を豊富にそろえた「ITセンター サテライトステーション2 (2014年3月開設)」を整備してきました。

そして、図書館において待望の「ラーニング・commons」を設置し、学習者同士が書籍を手にしながら、ホワイトボードや電子黒板を活用して議論しあえる学習環境を構築しました。これまでのcommonsと異なる点としては、やはり書籍が身近にあることです。豊かな蔵書のある図書館で議論を交わせることは学びを深め、知の再構成や精緻化するには非常に有益だと考えます。

本施設は、「ラーニング・エリア」「ワーキング・エリア」「ライティング・エリア」「ワークショップ・エリア」の4つから構成されています。「ラーニ

ング・エリア」では、討論や情報収集など、少人数によるグループ学習ができます。ここで思いっきり議論をして、思考を拡散させて意見を出し合ってください。「ワーキング・エリア」では、個室ブースでのグループ学習の場として活用できます。プレゼン練習・発表練習など思考を収束させたり、話し合った成果をアウトプットしたりする活動も周りの目を気にせず実施できます。「ライティング・エリア」では下記に詳細を記しておりますが、大学院生のTAが文章作成のサポートをします。「ワークショップ・エリア」は、ラーニング・commonsの中で最も大きなエリアを占めており、100人程度まで収容

可能です。このエリアでは、大型スクリーンとマイク設備を備えていますので、ゼミ発表、ガイダンス、ワークショップの開催などが可能です。すべてのエリアを使わずとも小グループでの利用もできます。これらの活動はあくまでも一例ですので、学生さんの柔軟なアイデアで様々な利用がなされることを期待しています！！

(教育推進部 岩崎千晶)



## ライティング・エリアの紹介

ライティング・エリアでは、ライティングラボのTA(大学院生)による文章作成支援を行っています。TAは、レポート・卒論・発表資料(レジュメやスライド)などを対象に、アカデミック・ライティングの基本技術についてのアドバイスをしています。例年、春学期は「レポートの書き方が分からない」「何から書き始めてい

いか分からない」と悩む1年生が多いですが、そういった学生にも丁寧に対応しています。新学期当初から多くの相談があり、ラボでのアドバイスを受けて「またみてほしい」と再利用する学生も増えています。文章作成に困ったときはひとりで悩まず、ぜひライティング・エリアにお越しください。何度でもご利用をお待ちしております。

(教育推進部 西浦真喜子)

## 国際学会で学会スタッフのインターンシップを行いました

台湾の台北市にあるAcademia Sinica(台湾国立総合研究所)で、ISGC2015が3月15日から20日の6日間行われました。ISGC(International Symposium on Grids and Clouds)は世界から29か国より200名以上が参加する国際学会で、ICTを活用した自然科学、教育、言語、環境問題などの分野の発表が行われました。日本からは関西大学をはじめ東京大学、九州大学などから計20名程度の参加がありました。

本年度も本学の学生が学会の運営スタッフとしてインターンシップを行いました。今年で3年目の取り組みでした。今回の参加者は岡本康晃(化学生命工学部2年)、増田優奈(文学部2年)、松田昇子(政策創造学部2年)、池澤智也(政策創造学部4年)の4名でした。

私たちは学会の2日前から現地入りし、運営スタッフ研修を行い、学会で配布される資料の

準備や会場の設営を行いました。学会の期間中は現地のスタッフとともに受付業務、会場運営業務、発表やワークショップ(WS)の支援を行いました。現地では英語でコミュニケーションを取らないといけなかったため、難しいと感じることもありましたが貴重な経験となりました。

今回は運営スタッフとしてだけでなく、教育推進部山本敏幸先生の交渉学WSにも参加し、LA業務で培ったファシリテーターとしての活動を行いました。WS参加者はイギリス、マレーシア、台湾、日本からの研究者・教育者でした。もちろん、ここでもコミュニケーションには英語を用いました。また、WSの参加者が多国籍だったため、文化の違いによる価値観の多様性の中、日頃のLA業務で感じることもないファシリテーションの難しさを感じました。

開会式では、学会での本学学生の「考動力」ある活躍が評価され、学会の主催者であるSimon C. Lin先生より感謝状を頂きました。

このインターンシップを通して、単なる英語を使ったというだけでなく自ら積極的にコミュニケーション取ることの大切さを学びました。このことは、関西大学が掲げる「考動力」に通ずると思います。このような貴重な経験ができる機会が3年という長期に渡って継続しています。これからも「考動力」をもってこの機会が継続してほしいと願っています。また、このようなグローバルな実践経験を関西大学の中だけでなく、日本中の大学生と共有していけたらと思っています。

報告者：LA・政策創造学部4年 池澤智也  
(教育推進部 山本敏幸)



池澤智也(政策創造学部4年)



松田昇子(政策創造学部2年)



岡本康晃(化学生命工学部2年)



増田優奈(文学部2年)

## Learning Assistant

## LA活動報告